



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 39

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】



懐かしの1枚
手枕の松
昭和44(1969)年

仁尾町境目にあった北の坊という庵の境内にあった。北の坊は昭和29(1954)年に廃寺となったが、松はそのまま残り、道路上に存在することとなった。町民の保護の努力も報われず枯れてしまったため、昭和44年に伐採された。

「思い出の1ページ」

「この写真は、昭和44年7月18日、伐採当日ですね」と語るのは、手枕の松があった普門院の住職である木村法住さん(84)。「町長をはじめ、行政関係者や地元有志の人が大勢集まり、別れを惜しみました」と話してくれました。

「この松は樹齢400年といわれ、仙人が手枕をして寝ている姿に見えることから『手枕の松』と呼ばれていました。元は境内の中にあっただんですが、昭和12年から始まった道路の拡幅工事により、道路上に出るようになりました。交通の妨げにはなるけれど、地域の人から残してほしいとの声が大きかったようです。江戸時代に各村や宿場町をはじめ、人通りの多い場所などに各藩のお触れや法令を掲示する高札場である『辻の札場(県指定史跡)』もその時に場所を移すことになりました」

木村さんは手枕の松との思い出を振り返ります。「幼い頃から父親に『この松は大切にせないかん』と言われてきました。『切るのは簡単だけど、植えて大きくするのは

たくさん時間がかかるんだ』とね。昔はよく、子どもたちが寺で遊んでいました。メンコや竹馬のほか、松によじ登ることも。幹周りは約4㍎、長さが約20㍎あったので、子どもからすると、かっこうの遊び場だったと思いますね。

寺は、明治時代には小学校の仮校舎や村庁舎として、大正時代には幼稚園として使用されてきました。手枕の松は、地域のシンボルとして、これまでに数多くの人、そして時代の移り変わりを見てきました。松は無くなりましたが、当時の思い出は語り継いでいきたいものですね」



編集 後記
フェイスブックページ「ひとりかご屋のmachiある記」をご存知ですか？市長に随行する職員が発信しているページです。いつも、内容に関係した英語のメッセージが込められています。市ホームページからもリンクしているので、ぜひご覧ください！